

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	介護職によるシーティング実践のための座位姿勢アセスメントシートの開発				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短大部社会福祉学科・准教授	氏名	木林 身江子
	研究協力者	所属・職名	短大部社会福祉学科・ 非常勤講師	氏名	秋山 みゆき
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	短大部社会福祉学科・准教授	氏名	木林 身江子

講演題目
介護職によるシーティング実践のための座位姿勢アセスメントシートの開発
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】 シーティングとは、車椅子に座った状態を身体的・社会的に最適化し、対象者の生活の質（QOL）を向上させるための技術および活動の総称である。シーティングの最適化には、専門職や介護者との協働が不可欠であり、各職種には「適用技術」と「使用技術」の双方が求められる。看護師や介護福祉士においては、対象者の身体機能と生活機能の不適合を発見するための「適用技術」、および適切に選定された道具を日常の看護・介護業務で安全かつ効果的に使用する「使用技術」が重要である¹⁾。 しかし、対象者の心身機能と生活（活動・参加）の状況から車椅子との不適合を見出すための知識や手法は、介護施設に十分浸透していないのが現状である。 そこで本研究では、介護職が対象者の座位姿勢を一次評価として実施できるよう、座位姿勢アセスメントシートを作成することを目的とした。（参考文献）1）光野有次, 吉川和徳(2009)『シーティング入門－座位姿勢評価から車いす適合調整まで－』中央法規出版, 14-18. 【成果】 （1）A 市内特別養護老人ホームにおけるアンケート調査結果の分析 回答者の約8割がシーティング研修の未受講者であり、教育的空白の存在が明らかとなった。また、ほとんどの調査項目において、利用者の座位姿勢の状態と観察・評価の実施状況との間に統計的な関連は認められず、現場での評価実践が十分に行われていない可能性が示唆された。 （2）専門家による助言とヒアリング調査 リハビリテーション病院の作業療法士を招聘し、計4回のシーティング研究会を開催した。研究会では、座位姿勢アセスメントシート（原案）に対する意見収集を行うとともに、シーティング実施におけるアセスメント、課題の明確化、目標設定、実施・評価、多職種連携など、実践プロセスに関するヒアリング調査を実施した。 【今後の展望】 上記の調査および意見交換を踏まえ、介護職による一次評価を目的とした座位姿勢アセスメントシートの原案を作成する。理学療法士、作業療法士、介護職員から継続的に意見を収集し、アセスメントシートの構成要素および教育方法について検討を進める。 また、アセスメントシートの試用を通じて、介護職のシーティング実践能力（特にアセスメント能力）向上への効果を検証する。導入前後の比較評価を行い、教育的効果を明らかにする予定である。